

## 日本における構造転換の必要性

令和5年10月24日

黒田インターナショナル コンサルティング

黒田 毅

世界の現実新しい世界への転換を明確に有するものである。これら既存アナログや手工業社会が、新しい技術文明の創出を明確に有するのである。それらは既存社会の価値観と現実を完全に崩壊させるものである。

日本における既存社会の維持という現実、これら世界の変化に対して完全に後手に自己を有するものである。他方においては、東京や都市におけるデジタル文化の育成や、新しい社会現実の創出が存在する。

これらは明確に政治のコンセンサスと行動における社会の転換を要求するものである。これら産業においてのその構造転換は、利益性の大きな先端産業への転換を要求されるものである。これらは令和における新たな土光委員会の設立を明確に必要とするものである。

これらは既存現実が完全に今日において通用しないものであり、世界における先端性はそのグローバル化とともに、完全に新しい世界への転換を模索しているのである。

これらにおいて、社会の既存環境の強さは日本における既存文化の永続が変化を否定しているものである。これらは政治が新しい国家像と社会のビジョンを提示し、その変化を求められるものであると考える。

一番わかりやすく言えば、ドラえもんにおける21世紀の現実がもはや現実として存在するということなのである。

これらは他らしい社会の枠組みや、構築を明確に要求するものであり、政治におけるリーダーシップと牽引において、世界における変化への対応を明確に行うべきなのである。

これらは先進国における現実のシフトは必ず存在し、それらへの理解と対応は明確に自己の新しい合意や理解という基盤において政治がこれらを行う必要を有するのである。グローバル化という現実における世界の変化やそのプレゼンスの構築は、遥かに想像に勝るものであり、これらへの対応も等しく政治における理解や行動を求められるものである。